

GALLERY KOYANAGI

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

かんらん舎 (1980-1993)

Daniel Buren / Tony Cragg / Imi Knoebel

2016.10.12 (水) – 11.19 (土)

KANRANSHA

1980-1993

DANIEL BUREN

TONY CRAGG

IMI KNOEBEL

報道関係者各位

『きれぎれの思い出』——大谷芳久（かんらん舎）

1977年、27歳の時、銀座に小さな画廊を開いて、日本の物故作家の展覧会を行っていたが、1980年、ヨゼフ・ボイスの作品に出会い、以後、ヨーロッパ現代美術の紹介に舵を切る。

《壊れたガラス》1982年作 ダニエル・ビュレン

1982年夏、友人から「秋にビュレンが来日します。その時、画廊で個展することO.K.です」といわれてその気になり、急遽、京橋に場所を見つけ、突貫工事で壁を作ってペンキを塗り、2週間で手作り画廊ができあがった。作家の制作現場に立ち会えることに興奮したが、それはたちまち恐怖に変わった。8.7cm幅のストライプが様々な色で塗られたガラスを、釘で壁に留める！「コンセプトが作品なんだ。割れれば又ガラスを切ればいい。作品は永久に壊れない」とビュレンはいう。そうだといい聞かせ、私は恐る恐る釘を打っていく。作品は無事設置され初日を迎えた。階段の蛍光灯が切れたので電気屋を呼んだ。カシャーんと音がした。階段の壁に設置された緑の作品の小さな正方形が落ちていた。「割れたっていいんだ。コンセプトが作品なんだ」とつぶやきながら、ガラスを釘で留めた。ビュレン 44歳、私 32歳の秋。

《山と湖》1984年作 トニー・クラッグ

トニーは海岸や川辺に漂着した木切れや、プラスチック製品の断片を拾い集め、それらを床や壁にちりばめて目を見張るような美しい作品を作るが、部品としてバラバラになっている素材を輸入する時、問題が発生する。当時、美術品の輸入に税金はかからなかった。ところが税関は木材の輸入だとして、送り状の金額に物品税をかけようとする。美術品だから何百万もするので、流れ着いた木切れはただのはずだ。「原産地、木の種類、価格」の問いに、「判りません。ライン川でしょう。ゼロ円」と答え、ブラックリストに載った。美術品かどうかを判断するのは作家でも、学芸員でもなく、税関員だったのだ。トニーと私 35歳の春。

《静物》1987年作 トニー・クラッグ

「ボトルは人体の隠喩なのだ」とトニーは語る。1987年の個展では「卓上に転がしておけばいい」との指示のもとに、磨りガラスの丸底フラスコ、メスシリンダーなど実験用器具が十数個届いた。フラスコも人間の胃の形からデザインされているという。「機能と形」を問う作品だが、卓を大地と見れば、フラスコたちは地上で戯れる人間の姿に見えてくる。

《黒い絵》1991年作 イミ・クネーベル

1991年1月、アメリカ主導の多国籍軍は一カ月に渡りイラクを空爆し続けた。同年、イミは漆黒の《バトル・ペインティング》をニューヨークで発表する。同年暮、イミから出品作を変更すると連絡があり、10点の《黒い絵》が送られてきた。タールの画面上に渦巻く強烈な刻線は戦火に喘ぐ人びとの怒り、悲しみ、嘆きなのだろうか。師であるボイス同様、イミもまた、時の政治状況と無縁に生きてはいない。イミ 51歳、私 42歳の冬。

展示作はいずれも25年以上前の作品だが、「真」はつねに「新」であることを見てほしい。

平素よりお世話になっております。

この度ギャラリー小柳では、2016年10月12日（水）から11月19日（土）の会期で、1980年代にヨーゼフ・ボイスをはじめとする同時代の優れたヨーロッパ現代美術作家を日本に紹介した伝説的なギャラリー「かんらん舎」の展覧会を開催致します。

「かんらん舎」は1980年にヨーゼフ・ボイス展から始まり、1993年のプリンキー・パレルモ展までヨーロッパの現代美術作家を紹介する企画展を精力的に行ないました。オーナーの大谷芳久氏は徹底して同時代性をつらぬき、現在も東京・京橋にて現代を見据えるアイロニカルな企画展を開催されています。今回の展覧会では、かんらん舎のコレクションからダニエル・ビュレン、トニー・クラッグ、イミ・クネーベルの作品を展示致します。すべての作品は制作されてから25年以上の歳月が流れていますが、3人の作品は今なお、見る人に新鮮な驚きを与えることでしょう。

展覧会の初日、10月12日（水）午後6時からのレセプションには、かんらん舎オーナーの大谷芳久氏が来場致します。また、10月15日（土）午後2時からのギャラリートークでは、聞き手に慶應義塾大学アート・センター教授/キュレーターの渡部葉子氏を迎え、大谷氏が1980年代からのかんらん舎の軌跡と共に、各作家との強烈で濃密な協働作業の記憶を語ります。ぜひご取材いただけますよう、ご案内申し上げます。

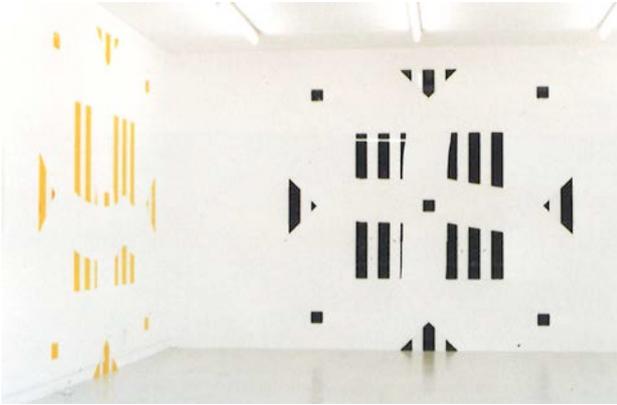
奇しくも34年前の10月12日は、かんらん舎にてダニエル・ビュレン展オープンの初日でした。小柳敦子が敬愛して止まない、かんらん舎 大谷芳久氏の仕事を、ギャラリー小柳フロア移転後初の企画展として皆様にご覧頂けますことを光栄に存じます。

資料および図版のご依頼は、担当者までご連絡ください。

ご掲載の際にはご一報いただけますよう、お願い申し上げます。

ギャラリー小柳

【広報用図版】



Daniel Buren ダニエル・ビュレン

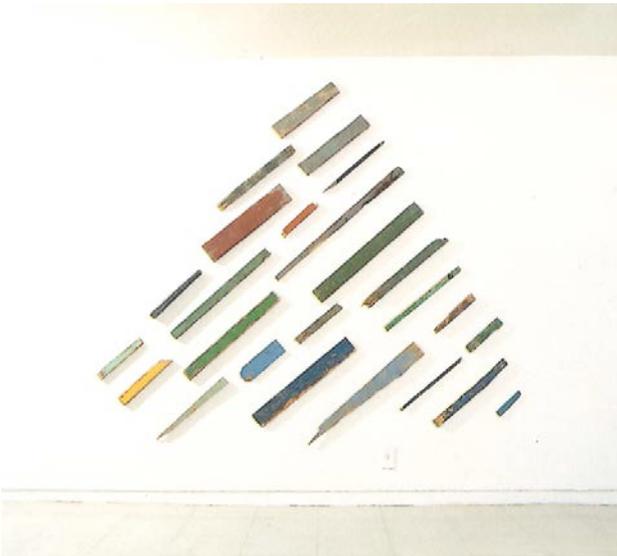
《Broken Glass》

1982年

かんらん舎「Daniel Buren -COLORS IN SITE-」展示風景より

(会期 1982年 10月 12日-11月 13日)

© KANRANSHA



Tony Cragg トニー・クラッグ

《Mountain and Lake》

1984年

found lengths of wood

190 x 214 x 4 cm

かんらん舎「Tony Cragg」展示風景より

(会期 1984年 3月 26日-4月 28日)

© KANRANSHA



Tony Cragg トニー・クラッグ
《Untitled》
1987年
glass, wood, iron
103 x 81.5 x 125 cm
かんらん舎「Tony Cragg」展示風景より
(会期 1987年12月1日-12月26日)
© KANRANSHA



Imi Knoebel イミ・クネーベル
《Black Painting》
1991年
oil on fiberboard
かんらん舎「Imi Knoebel -BLACK PAINTINGS-」展示風景より
(会期 1992年1月20日-2月15日)
© KANRANSHA

【作家略歴】

Daniel Buren ダニエル・ビュレン

1938年、フランス・パリ生まれ。8.7センチ幅のストライプを用いたインスタレーション作品で知られる。1986年、パレ・ロワイヤル中庭で発表した彫刻作品で一躍有名になる。第19回高松宮殿下記念世界文化賞受賞（2007年）。

Tony Cragg トニー・クラッグ

1949年、イギリス・リバプール生まれ。漂着物（プラスチック、木材）を彫刻の素材として取り上げ、1980年代の「ニュー・ブリティッシュ・スカルプチュア」を牽引した存在。ターナー賞（1988年）、第19回高松宮殿下記念世界文化賞を受賞（2007年）。

Imi Knoebel イミ・クネーベル

1940年、ドイツ・デュッセルドルフ生まれ。ヨーゼフ・ボイスに師事。一貫して色と形を追求。2011年、ランス（仏）のノートルダム大聖堂のステンドグラスを色の三原色で制作し、注目を集める。代表作は「ルーム 19」（1968年）「ゲントルーム」（1980年）。

【展覧会概要】

展覧会名：かんらん舎（1980-1993）：Daniel Buren／Tony Cragg／Imi Knoebel

会期：2016年10月12日（水）～11月19日（土）

オープニング・レセプション 10月12日（水）18:00～20:00

*かんらん舎オーナー 大谷芳久氏来場。作家3名の来場はございません。

ギャラリートーク 10月15日（土）14:00～15:30 受付開始 13:30

大谷芳久（かんらん舎）× 渡部葉子（慶應義塾大学アート・センター）

かんらん舎オーナーの大谷芳久氏が本展について語るトークイベントを開催致します。聞き手は、大谷氏と長年の親交がある慶應義塾大学アート・センター教授／キュレーターの渡部葉子氏。

*先着40名様まで座席のご予約を承ります。

開廊時間：11:00～19:00 日月祝は休廊

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座1-7-5 小柳ビル9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

交通：東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅7番出口より徒歩1分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅A-9出口より徒歩5分

URL：<http://www.gallerykoyanagi.com>

お問い合わせ／トークイベントご予約／写真請求先：ギャラリー小柳（担）善名／清水
電話 03-3561-1896 | メールアドレス mail@gallerykoyanagi.com